


本年度作業部会の検討結果と今後の審議会の予定

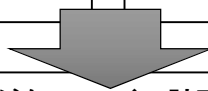
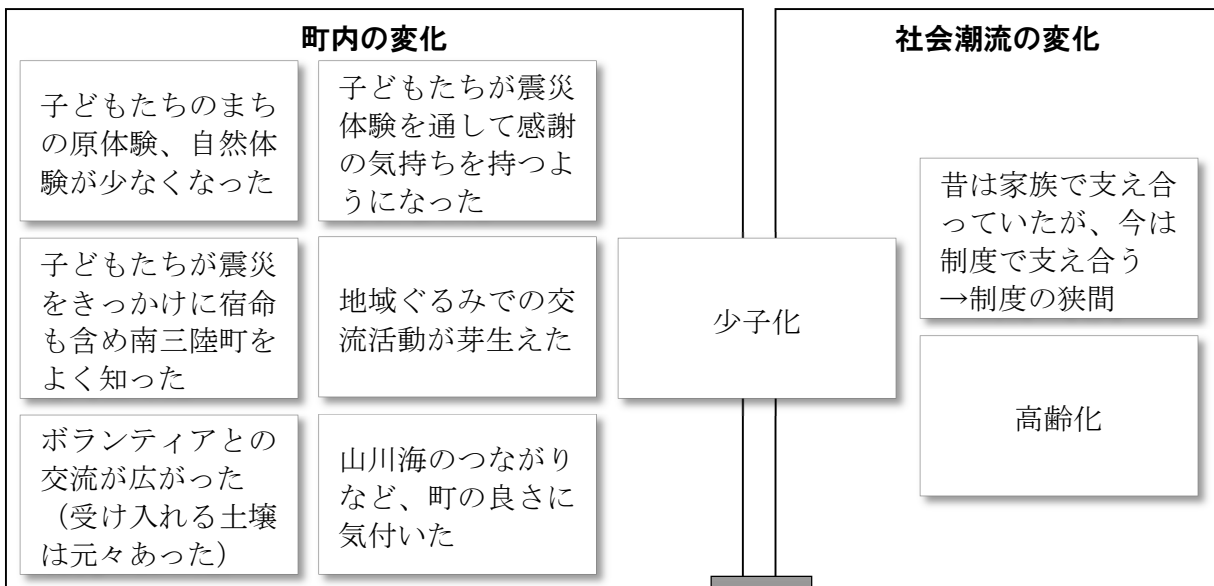
(1) 本年度作業部会 (第 6 回～第 8 回) の開催概要

回	開催日	主な検討事項
第 6 回	平成 27 年 5 月 20 日 (水)	◇まちの将来像について - 総合計画見直しの必要性及び必然性の再確認
第 7 回	平成 27 年 6 月 23 日 (火)	◇基本計画の取組みへの意見 ◇まちの将来像について - 理念及び方向性の具体化
第 8 回	平成 27 年 7 月 15 日 (水)	◇まちの将来像について ◇まちづくりの視点について

平成 27 年度 南三陸町総合計画審議会・作業部会（第 6 回）


日 時	平成 27 年 5 月 20 日（水） 18:00～20:00
場 所	南三陸町役場大会議室 A, B
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会、挨拶 2 報告事項（昨年度の審議会・作業部会の振り返り 第 3 回総合計画審議会の報告、 団体ヒアリングの実施結果、 町職員からの『まちづくりの方向性』提案、 次期総合計画の施策体系案の説明、 平成 27 年度の作業部会スケジュール案） 3 検討作業（まちの将来像について - 総合計画見直しの必要性及び必然性の再確認） 4 連絡事項（次回作業部会（第 7 回）の日程、次回作業部会までの事前準備） 5 閉会 
出 席	出席委員数 8 名
検討結果 概要	<p>■まちの将来像について、総合計画審議会からの意見を踏まえてさらに発展していくために、現計画策定当時の環境の変化や、震災以前から変わらないこと等、総合計画を見直す必然性・必要性の再確認を行った。</p> <p>■検討結果は、別紙 1 「まちの将来像について- 総合計画見直しの必要性及び必然性の再確認」にまとめた。</p> <p>～第 7 回作業部会の開催について～</p> <p>日 時：平成 27 年 6 月 23 日（火） 18:00～</p> <p>議 題：・まちの将来像について-方向性及び理念の具体化 ・基本計画の取り組みへの意見</p> <p><委員個別の事前検討></p> <p>現総合計画の計画期間と比べて何が変わってきたのか（町内の変化、社会潮流の変化等）、それを踏まえて見直さなければいけない点、見直す必要のない点、何を計画に載せなければならないのか等</p>

まちの将来像について-総合計画見直しの必要性及び必然性の再確認



見直す必要がある / 見直す必要がない / 計画に載せるべき			
子どもたちも含めてみんながまちづくりに参加する	住民が住民の生活を支え合う仕組み	人に住んでもらう	就職・進学等で町外に出た後、まちに戻るといった意識の醸成やそのための支援
まちづくりに関わる責任を持つ	特徴を活かして活躍できる仕組み	生活できる仕事が必要	若者たちの行動、企業のアドバイス導く人や体制
山川海のつながりなど、命がめぐることを再認識する	地域で支え合う仕組みを再構築	町の資源や、既にあるものを活かし仕事をつくる	仕事をつくるだけでなく近隣へ通勤できる工夫
自然などまちの独自性は見直す必要がない	民泊など地域の受け入れ体制を維持する		
	交流を広げ、さらに充実していく		

平成 27 年度 南三陸町総合計画審議会・作業部会（第 7 回）

日 時	平成 27 年 6 月 23 日（火） 18:00～20:00	
場 所	南三陸町役場大会議室 C	
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会、挨拶 2 報告事項（今後の作業部会スケジュール案、第 6 回作業部会の報告、「現総合計画を見直す必要性・必然性の整理シート」提出結果） 3 検討作業（基本計画の取組みへの意見、まちの将来像について - 理念及び方向性の具体化） 4 連絡事項（若年層等への意向調査の実施について、次回作業部会（第 8 回）の日程） 5 閉会 	
出 席	出席委員数 7 名	
検討結果概要	<p>■基本計画の取組みについて、基本計画立案の参考とするため、また将来像(案)を充実させるキーワードを具体化するため、基本構想骨子案の 5 つの柱ごとに、これからの南三陸町に必要な取組みについて、ご意見をいただいた。</p> <p>■まちの将来像について、前回の作業部会案をもとに、これからの南三陸町の“道しるべ”に相応しいまちの将来像（理念、方向性、将来の姿）について、検討を行った。</p> <p>■検討結果は、別紙 1 「基本計画の取組みへの意見」、別紙 2 「まちの将来像について - 理念及び方向性の具体化」にそれぞれまとめた。</p> <p>～第 8 回作業部会の開催について～</p> <p>日 時：平成 27 年 7 月 15 日（水） 18:00～</p> <p>議 題：・まちの将来像について ・まちづくりの視点について</p> <p><委員個別の事前検討> 将来像の作業部会案（第 5 回作業部会で作成）への変更提案</p>	

基本計画の取組みへの意見

(1) 「安全安心・参加・協働」

- ・ 集団移転が完了するまでの消防団の対応、団員一人一人の意向を聞いた上での消防団再編成
- ・ 集団移転後の新しいコミュニティの運営
- ・ 仮設住宅での高齢者見守りに関する実績の活用
- ・ 元気な高齢者をつくるための安心、安全の取組、協働のまちづくり
- ・ 住民を含めた主体的な見守り活動の実施、交流の促進

(2) 「産業振興・自然環境・生活環境」

- ・ 高台移転後の高齢者や障害者の移動手段確保
- ・ 仙台から直行する交通手段の確保
- ・ 新しい総合計画で、産業分野と自然環境分野を一つの分野にした意義の説明
- ・ 川をきれいにする取組の実施

(3) 「健康・医療・福祉」について

- ・ シルバー人材センター再建の方向性を示すこと
- ・ ユニバーサルデザイン社会の実現
- ・ 多様な情報提供とふれあいの場の提供
- ・ 保育など子ども・子育て支援環境の整備
- ・ 地域での見守りに関する意識付け
- ・ 独り暮らし高齢者への支援、高齢者の身寄りがいない人の対応
- ・ 介護を受けていない高齢者とのつながりの構築

(4) 「教育、生涯学習」について

- ・ ボランティア精神を身につける教育の実施
- ・ 郷土、歴史、スポーツ等地域や家庭での学習機会の提供、及びそのような活動を行う団体への支援
- ・ 一度町を出ても、町を PR し、将来 U ターンしてもらおうことのできる人材育成
- ・ 地域の防災に関する学習機会の提供（津波の教えの伝承、各地域での避難先等）
- ・ 中学生等への「インターネットとの正しい付き合い方」の学習機会提供

(5) 「行財政運営」について

- ・ 子ども議会、女性議会等の実施
- ・ 町長の出前講座等の実施

まちの将来像について - 理念及び方向性の具体化

将来像の作業部会案

(全体)

● 作業部会案1 (変更(発展)形):
**みんなで暮らす、ちょうどよいなか
 ~海・山・里・人の命がめぐる
 つながりのまちをはじめよう~**

● 作業部会案2 (変更(発展)形):
**みんなで暮らす、ちょうどよいなか
 ~行ってみたいまち・また来てみた
 いまち・暮らしてみたいまち~**

● 作業部会案3 (現計画の踏襲形):
**自然・ひと・なりわいが紡ぐ
 安らぎと賑わいのあるまち・南三陸町**


各案に対する意見

- ・インパクトのある表現はわかりにくいこともあるので、シンプルな表現が良い。
- ・町民憲章でも軟らかい表現を使っているので、合わせた方が良い。
- ・この町ならではの表現を用いたい。
- ・市の一部になるのではなく、「町」がちょうど良い。

- ・都会から家族ぐるみで町に来てほしい。「みんなで暮らす」という表現は、いろいろな世代が暮らせるという意味で良い表現ではないか。
- ・語尾を「~つながりのまちをはじめよう！」とする、または「~つながりのまち」で止める表現でも良いのではないか。
- ・「ちょうどよい」は個人によって捉え方が違うので、どのようないなかであるかがわからなければ用いにくい。
- ・「森・里・海の命がめぐる」など、「命がめぐる」という表現は残したい。
- ・「自然と共に生きていく」という表現を盛り込めないか。

- ・「大切にはぐくむ」という姿勢がなければ、賑わい、つながりは生まれない。
- ・自然がある、命がめぐるという、温かいフレーズが良い。
- ・この案は商業的な見方が強くなる。「人の命」を考えるべきである。
- ・この案は末尾の「賑わいのあるまち」の印象が強くなる。皆の共感を得られる1つの要素に絞り、その実現を目指した結果「賑わい」が取り戻せるとした方が良い。

平成 27 年度 南三陸町総合計画審議会・作業部会（第 8 回）

日 時	平成 27 年 7 月 15 日（水） 18 : 00 ~ 20 : 00	
場 所	南三陸町役場大会議室 A, B	
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会、挨拶 2 報告事項（今後の作業部会スケジュール案、第 7 回作業部会の報告、事前課題（まちの将来像（案）変更提案とその概要）提出結果） 3 検討作業（まちの将来像についてまちづくりの視点について） 4 連絡事項（団体ヒアリングの実施について、次回作業部会（第 8 回）の日程） 5 閉会 	
出 席	出席委員数 6 名（本作業部会のみ、町職員 4 名も参加）	
検討結果概要	<p>■ 第 4 回総合計画審議会開催にあたり、作業部会の検討内容について質問があった際に回答いただくため、作業部会の委員に出席を依頼した。その結果、工藤（真）委員、高橋委員（予定）に出席いただくこととなった。</p> <p>■ まちの将来像の検討にあたり、事前課題について各委員から提案の背景について説明いただき、その後各委員及び本日の会議に出席している町職員から意見をいただいた。</p> <p>最終的に、将来像案は本日の作業部会を経て以下の 3 案に整理された。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 森里海ひと いのちめぐるまち 南三陸 ② 人と自然がバトンをつなぐまち、南三陸 ③ みんなで創ろう南三陸 海・山・里 人の命がめぐる つながりのまち <p>■ 基本構想の「まちづくりの視点」について、概要と、第 3 回審議会に提示した以降に修正した箇所等を説明し、その内容について検討を行った。</p> <p>■ 検討結果は、別紙 1 「基本計画の取組みへの意見」、別紙 2 「まちの将来像について - 理念及び方向性の具体化」にそれぞれまとめた。</p> <p>～第 9 回作業部会の開催について～</p> <p>日 時：平成 27 年 8 月 12 日（水） 18 : 00 ~</p> <p>議 題：リーディングプロジェクトについて</p> <ul style="list-style-type: none"> - プロジェクトの全体方針についての協議 - 各分野に関する意見交換 	

将来像の変更提案（各委員からの事前課題の提出結果）

- みんなで創ろう、暮らしやすいまち 森・里・海・人 素材はある
- 無いものねだりよりあるモノ探し 森・里・海・人 宝のまち南三陸
- 共に創ろう南三陸 海・山・里 人の命がめぐるつながりのまち
- 食材と人情味の宝庫 南三陸へようこそ 海・山・里 人の命がめぐるつながりのまち
- 自然に抱かれ人を育む四季の里 ござい！あがらい！！とまっていがいん！！
- 快護で介護、皆家族 さあ声出そう 声聴こう 支え愛のまち 南三陸
- 人・自然がバトンをつなぐ町、南三陸町
- 大地と海と人が生きる町
- みんなで暮らす、豊かないなか
- 海・山・里・人の命がめぐる南三陸町
- 森里海ひと いのちめぐるまち 南三陸
- 朝日が輝く悠久の命 南三陸
- 朝日とともに生きて行く南三陸町
- みんなで創生 南三陸町
- ございん（GO SIGN）南三陸
- 海、山、里、人のよい田舎
- 震災伝承
- 未来へ紡ぐ安心の街
- 人生の樂園計画叶えます

第 8 回作業部会で選定された将来像の案とその考え方

	将来像案	将来像案の考え方
案 1	森里海ひと いのちめぐるまち 南三陸	森があり、里があり、海があり、そこに人が生かされているという「自然への尊敬の念」を皆の共通の意識として持ちたいと思い、最初に自然を記載した。 ひらがなの「ひと」は、子どもからお年寄りまで色々なひとが生活しているということを表している。 「いのちめぐるまち」は、震災で亡くなった方、人が住まうために切られていく木、埋められていく川などがめぐって新しい命になり、また帰ってくるという希望をみんなで描きたいという思いを込めている。
案 2	人と自然が バトンをつなぐまち、南三陸	命の大切さ、人と人とのつながり、大地の恵み、お世話になった人の愛、これまで歩んできた歴史などの思いを込めて作成した。
案 3	みんなで創ろう南三陸 海・山・里 人の命がめぐる つながりのまち	平成 26 年度作業部会案 1 をそのまま活かした。 「みんなで創ろう南三陸」は、震災で培った絆、色々なつながりを大切に、町内だけでなく全世界へ向けてみんなでつくっていくという意味で、町の名前も加えて作成した。

まちづくりの視点への意見

まちづくりの視点	作業部会での意見
地域文化の学習 (伝承・防災・循環)	(意見なし)
多様なコミュニティの再構築 (つながり・人づくり)	<ul style="list-style-type: none"> ○「新たに再構築」とあるが、「新たに」と「再」のどちらかは不要ではないか。また、震災前のコミュニティを大切にしつつ、新たに形成されるコミュニティも大切にするのであれば、「再」はいらないのではないか。 ○震災ですべてなくなってしまった中、人と人とのつながりがあったからこそ今があるので、コミュニティは大事だと思う。子育て担当として、子どもを育てる町という視点が重要と考えているので、その要素を加えられないか。「地域文化の学習」と同様、「人づくり」の要素が含まれる概念であると思う。
定住・交流人口の増加 (感謝・おもてなし)	<ul style="list-style-type: none"> ○「感謝・おもてなし」というサブタイトルでは交流人口についてしか言及していないように見えるので、定住人口の増加についても示せないか。 ○子どもが少なくなり、志津川小学校ですら1学年1クラスであると聞く状況なので、子育て支援の視点を盛り込めないか。 ○2段落目を1段落目と入れ替え、定住人口に関する記述を交流人口の前にはどうか。 ○「必ず帰ってきたいと思えるふるさと」といった文言を入れられないか。
産業のブランド化 (仕事・雇用・連携)	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の響きは良いが、より具体的な表現に落とし込めないか。すべての産業が対象であり、守備範囲が広く感じる。

(2) 今後の総合計画審議会の予定

回	日程	主な議題等
第4回	8月6日(木)	・基本構想骨子案(まちの将来像、まちづくりの視点) ・基本構想骨子案(土地利用のあり方) ・基本計画骨子案(現状と課題)
第5回	9月下旬	・基本構想(土地利用) ・基本計画(現状と課題以外、リーディングプロジェクト含む)
第6回	10月下旬	・基本構想案 ・基本計画案
第7回	11月中旬	・基本構想答申案 ・基本計画答申案